

## *IV* 調査結果の要約



## 1. 居住と生活環境

### (1) 居住年数

居住年数について聞いたところ、「20年以上」(53.0%)の《長期居住者》が5割半ば近くで最も高く、次いで「10～19年」(20.8%)と「5～9年」(10.2%)を合わせた《中期居住者》(31.0%)が3割強、「5年未満」(15.3%)の《短期居住者》が1割半ばとなっている。

### (2) 定住意向

定住意向について聞いたところ、「住み続けるつもり」(60.7%)と「当分の間は住むつもり」(26.8%)を合わせた《住み続けたい》(87.5%)の割合が8割半ばを超え、高い割合を示している。

一方、「できれば転居したい」(3.3%)と「転居するつもり」(2.8%)を合わせた《転居したい》(6.1%)の割合は1割未満となっている。

#### (2-1) 住み続けたい理由

住み続けたい理由について聞いたところ、「住み慣れているから」(63.9%)が6割半ば近くで最も高く、次いで「自分の家(土地)だから」(56.7%)、「買い物など毎日の生活の便が良いから」(47.7%)、「通勤・通学に便利だから」(39.4%)が比較的高くなっている。

#### (2-2) 転居したい理由

転居したい理由について聞いたところ、「自分の家(土地)ではないから」(28.9%)が3割近くで最も高く、次いで「家の広さなどの居住環境が悪いから」(20.5%)、「家賃(地代)が高いから」(19.3%)、「買い物など毎日の生活の便が悪いから」(14.5%)、「まちの雰囲気嫌いだから」(13.3%)が比較的高くなっている。

### (3) 住みよさ評価

住みよさ評価について聞いたところ、「非常に住みよい」(18.6%)と「まあまあ住みよい」(72.9%)を合わせた《住みよい》(91.5%)の割合は9割強と圧倒的に高い。

一方、「やや住みにくい」(5.6%)と「住みにくい」(1.1%)を合わせた《住みにくい》(6.7%)は1割に満たない。

### (4) まちづくりを進めていく上で重要な課題

まちづくりを進めていく上で重要な課題について聞いたところ、「歩道の段差解消など高齢者・障がい者に配慮したまちづくり」(34.7%)が3割半ば近くで最も高く、「駅前などの開発整備」(33.1%)、「建物の不燃化などの防災まちづくり」(30.9%)が比較的高くなっている。

## 2. 広報活動

### (1) 区政に関する情報の入手方法

区政に関する情報の入手方法について聞いたところ、「あらかわ区報」(53.5%)が5割半ば近くで最も高く、次いで「荒川区ホームページ」(20.5%)、「町会の回覧板」(19.1%)と続いている。

### 3. デジタル化の推進

#### (1) インターネット利用に使用した情報機器

インターネット利用に使用した情報機器について聞いたところ、「スマートフォン」(56.3%)が5割半ばを超え最も高く、次いで「パソコン」(16.6%)、「インターネットを利用していない」(9.1%)と続いている。

#### (2) 行政手続きのデジタル化でサービス向上を期待するもの

行政手続きのデジタル化でサービス向上を期待するものについて聞いたところ、「夜間・休日を問わず、窓口に行かずに手続きができる」(57.9%)が5割半ばを超え最も高く、次いで「窓口での待ち時間が減る」(12.9%)、「紙の申請書を書かなくても手続きができる」(10.4%)と続いている。

#### (3) サービス向上を期待する分野

サービス向上を期待する分野について聞いたところ、「福祉分野（国民健康保険、介護保険、高齢者福祉、障害者福祉、生活保護等）」(53.5%)が5割半ば近くで最も高く、次いで「健康分野（検診、予防接種、衛生等）」(41.9%)、「住民記録分野（転出入、住民票等）」(41.1%)、「税金分野（確定申告、税証明書等）」(41.0%)が4割強となっている。

#### (4) 行政サービスを利用する上での不安解消のために区が行うべきこと

行政サービスを利用する上での不安解消のために区が行うべきことについて聞いたところ、「個人情報漏えいしないよう万全なセキュリティ対策の実施」(65.0%)が6割半ばで最も高く、次いで「これまでどおり窓口での手続きができる環境の整備」(31.5%)が3割強となっている。

### 4. 防災対策

#### (1) 災害時に備えた食料や飲料水の備蓄

災害時に備えた食料や飲料水の備蓄について聞いたところ、「普段使っている食料を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」(59.2%)が6割弱で最も多く、次いで「備蓄用として販売されている長期保存用食料等を備蓄している」(35.1%)が3割半ばとなっている。

##### (1-1) 災害時に備えた備蓄の量

災害時に備えた備蓄の量について聞いたところ、「3日以上、7日分未満の備蓄をしている」(46.9%)が4割半ばを超え最も高く、次いで「3日分未満の備蓄をしている」(39.2%)、「7日分の備蓄をしている」(13.1%)と続いている。

##### (1-2) 備蓄を行っていない理由

備蓄を行っていない理由について聞いたところ、「備蓄物資を置くスペースがないから」(51.5%)が5割強で最も高く、次いで「何をどのくらい備蓄すれば良いかわからないから」(43.7%)、「備蓄物資の入替や管理が面倒だから」(36.6%)が続いている。

## (2) 家具の転倒・落下防止

家具の転倒・落下防止について聞いたところ、「一部の家具類だけに対策を行っている」(30.7%)が3割で最も高く、「大部分の家具類に対策を行っている」(12.5%)を合わせた《設置している》(43.2%)は4割半ば近くとなっている。「家具が転倒・落下等しても身に危険が及ばないように、家具類の配置を工夫している」(22.2%)、「クローゼット等に収納しており、倒れるような家具類は置いていない」(8.7%)を合わせた《家具を固定する必要がない》(30.9%)は3割となっており、《設置している》と合わせると74.1%で7割半ば近くとなっている。一方で「行っていない」(22.9%)は2割強となっている。

### (2-1) 家具の転倒・落下防止器具の未設置理由

家具の転倒・落下防止器具の未設置理由について聞いたところ、「助成制度を知らなかったから」(45.8%)が4割半ばで最も高く、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、壁に傷をつけることができないから」(31.1%)が3割強でこれに次いでいる。

## (3) 感震ブレーカーの設置状況

感震ブレーカーの設置状況について聞いたところ、「全額自己負担で感震ブレーカーを設置した」(3.9%)と「助成金を活用して感震ブレーカーを設置した」(4.2%)と「居住する前から感震ブレーカーが設置されていた」(11.7%)を合わせた《設置している》(19.8%)は2割弱となったが、「本設問まで感震ブレーカーを知らなかった」(57.3%)が5割半ばを超えている。

### (3-1) 感震ブレーカーの未設置理由

感震ブレーカーの未設置理由について聞いたところ、「助成制度を知らなかったから」(40.9%)が4割で最も高く、「設置する方法がわからない、または設置するのが難しいから」(26.9%)が続いている。

### (3-2) 感震ブレーカーの設置意向

感震ブレーカーの設置意向について聞いたところ、「設置を検討したい」(55.2%)が5割半ばで最も高く、「設置を検討しない」(31.5%)は3割強となっている。

## 5. 芸術文化活動

### (1) 芸術文化活動、芸術文化鑑賞の有無

芸術文化活動、芸術文化鑑賞の有無について聞いたところ、「芸術文化活動・鑑賞を行わなかった」(48.2%)が5割近くで最も多く、次いで「芸術文化の鑑賞を行った」(39.1%)が4割弱となっている。

#### (1-1) 芸術文化活動を行った方法

芸術文化活動を行った方法について聞いたところ、「個人で活動した」(51.4%)が5割強で最も高く、次いで「習い事や団体・サークル等に参加・活動した」(48.1%)が5割近くと続いている。

#### (1-2) 芸術文化を鑑賞した方法

芸術文化を鑑賞した方法について聞いたところ、「劇場や美術館等の公演・催し等に足を運んだ」(76.7%)が7割半ばを超え最も高く、次いで「テレビ・ラジオで鑑賞した」(51.2%)、「インターネットで鑑賞した」(45.2%)が続いている。

### (1-3) 芸術文化活動、芸術文化鑑賞を行わなかった理由

芸術文化活動、芸術文化鑑賞を行わなかった理由について聞いたところ、「新型コロナウイルス感染症の影響により、芸術文化活動・鑑賞事業が中止になった。又は外出を控えた」(43.4%)が4割半ば近くで最も高く、次いで「芸術文化活動・鑑賞を行う時間がない」(29.2%)、「芸術文化自体に興味がない」(23.4%)と続いている。

### (2) 区の芸術文化で特色のある分野

区の芸術文化で特色のある分野について聞いたところ、「わからない」(37.1%)が3割半ばを超えて最も高くなっている。特色ある分野の中では、「伝統工芸」(25.5%)が2割半ばで最も高く、次いで「服飾(ファッション)」(12.9%)、「俳句」(12.8%)が続いている。

### (3) 区の芸術文化の振興のため充実させるべきもの

区の芸術文化の振興のため充実させるべきものについて聞いたところ、「芸術文化を鑑賞する機会の充実」(27.8%)が2割半ばを超え最も高く、次いで「子どもが、芸術文化に親しむ機会の充実」(26.9%)、「芸術文化活動を行える場や機会の充実」(26.3%)と続いている。

### (4) オンラインによる芸術文化の鑑賞や講座の受講等への興味

オンラインによる芸術文化の鑑賞や講座の受講等への興味について聞いたところ、「興味があり、利用したことがある」(14.2%)と「利用したことはないが、興味がある」(34.8%)を合わせた《興味がある》(49.0%)で5割弱となっている。一方、「興味がない」(47.5%)は4割半ばを超えている。

## 6. 健康づくり

### (1) 健康状態

健康状態について聞いたところ、「はい」は『⑧週1回以上外出していますか』(92.4%)が9割強で最も高く、『⑨体調が悪いときに身近に相談できる人がいますか』(87.7%)が8割半ばを超え、『①1日3食食べていますか』(77.0%)が7割半ばを超えている。

一方、「いいえ」は『⑥この1年間で転んだことがありますか』(79.0%)が8割弱で最も高く、次いで『②固い食べものが食べにくくなりましたか』(76.5%)、『③むせることがありますか』(72.5%)、『④2~3kg以上の体重の減少がありましたか』(72.0%)が7割台で高くなっている。

### (2) 健康維持のため気をつけていること

健康維持のため気をつけていることについて聞いたところ、「睡眠、休養を十分に取るように心がけている」(69.8%)が7割弱で最も高く、次いで「定期的に健康診断を受けている」(55.5%)、「食事・栄養に気を配っている」(53.1%)と続いている。

#### (2-1) 運動やスポーツの頻度

運動やスポーツの頻度について聞いたところ、「運動やスポーツを週1~2回するようにしている」(46.5%)が4割半ばを超え最も高く、次いで「運動やスポーツを週3~4回するようにしている」(23.2%)が2割半ば近くとなっている。

#### (2-2) 健康に気をつけるようになったきっかけ

健康に気をつけるようになったきっかけについて聞いたところ、「健診結果を見て」(40.1%)が4割で最も高く、次いで「病気をしたので」(26.9%)、「新聞・雑誌・テレビなどの健康記事や番組を見て」(22.7%)が続いている。

### (3) 食生活での意識

食生活での意識について聞いたところ、【野菜を多く食べる】は「はい」(79.8%)が8割弱、「いいえ」(18.2%)が2割近くとなっている。

【塩分を控える】は「はい」(61.8%)が6割強、「いいえ」(35.1%)が3割半ばとなっている。

### (4) 「あらかわ満点メニュー」の認知度

「あらかわ満点メニュー」の認知度について聞いたところ、「知らない」(49.0%)が5割弱で最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」(35.3%)、「知っており、利用したことがある」(14.3%)となっている。

### (5) ロコモティブシンドロームの認知度

ロコモティブシンドロームの認知度について聞いたところ、「知らない」(66.2%)が6割半ばを超え最も高く、次いで「知っている」(18.9%)、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」(12.3%)となっている。

#### (5-1) ロコモティブシンドローム予防のために必要な生活習慣

ロコモティブシンドローム予防のために必要な生活習慣について聞いたところ、「日常生活で意識して体を動かしたり、運動をする」(75.6%)が7割半ばで最も高く、次いで「筋肉を強くする食事(たんぱく質を適量とる)」(63.8%)が6割半ば近くとなっている。

## 7. スポーツ振興

### (1) パラスポーツへの関心

パラスポーツへの関心について聞いたところ、「パラスポーツに関心はない」(66.5%)が6割半ばを超え最も高く、次いで「パラスポーツを体験したことはないが、今後体験したいと考えている」(20.4%)と続いている。

### (2) スポーツボランティアへの関心

スポーツボランティアへの関心について聞いたところ、「スポーツボランティアに関心はない」(72.0%)が7割強で最も高く、次いで「スポーツボランティアに参加したことはないが、今後参加したいと考えている」(17.1%)と続いている。

## 8. 公園利用

### (1) 公園利用の頻度

公園利用の頻度について聞いたところ、「ほとんど利用しない」(53.3%)が5割半ば近くで最も高く、次いで「月に1~2度」(21.1%)、「週に1度」(10.0%)と続いている。

### (2) 公園を利用する目的

公園を利用する目的について聞いたところ、「散策・自然観察」(36.3%)が3割半ばを超え最も高く、次いで「休憩・やすらぎ」(28.7%)、「運動」(17.7%)と続いている。

### (3) 新しい公園に欲しいと思う機能

新しい公園に欲しいと思う機能について聞いたところ、「休憩場所(ベンチ、日よけ等)」(58.9%)が6割近くで最も高く、次いで「四季を感じられる植栽」(51.4%)、「カフェや売店等」(46.6%)と続いている。

## 9. マンション

### (1) 建物の老朽化対策の有無

建物の老朽化対策の有無について聞いたところ、「している」(56.8%)が5割半ばを超え最も高く、「していない」(7.5%)、「わからない」(33.2%)となっている。

### (2) 集合住宅の管理・修繕に関して感じる不安

集合住宅の管理・修繕に関して感じる不安について聞いたところ、「管理修繕費がかかることによる共益費の値上がり」(35.3%)が3割半ばで最も高く、次いで「雨漏りや外壁のひび割れ等の建物の劣化」(18.1%)、「管理や維持の活動をする人材やノウハウ不足」(16.1%)と続いている。一方、「不安はない」(34.4%)は3割半ば近くとなっている。

## 10. 区政への関心と要望

### (1) 区政への関心

区政への関心について聞いたところ、「関心がある」(18.0%)と「やや関心がある」(37.1%)を合わせた《関心がある》(55.1%)は5割半ば、一方、「あまり関心がない」(27.8%)と「関心がない」(5.8%)を合わせた《関心がない》(33.6%)は3割半ば近く、《関心がある》との差は21.5ポイントとなっている。

### (2) 区政への意見・要望などの伝達方法

区政への意見・要望などの伝達方法について聞いたところ、「区の担当窓口などに電話する」(42.9%)が4割強で最も高く、次いで「電子メール、LINE等のチャットアプリを利用する」(36.6%)、「区の担当窓口などに来庁する」(27.4%)と続いている。

### (3) 今後、区に力を入れてほしい事業

今後、区に力を入れてほしい事業について聞いたところ、「地震・水害などの防災対策」(58.8%)が6割近くと最も高く、次いで「地域防犯の取組」(31.0%)、「高齢者福祉の充実」(26.8%)となっている。